

せっかち 園長の ひといごと

2016、6、30

認定こども園あかみ幼稚園・メイブルキッズ 統括園長 中山昌樹

梅雨の季節といっても、関東地方の山の方では水不足、九州地方では記録的な大雨
・・・皆さんいかがお過ごしですか？

ほどよい季節というのが、昔ほどなくなった感じがします。気候が激しいというか。
私がこの時期好きなのは、家の周りの草むらで、蛙（かえる）が「コロ、コロコロコロ」と鳴く声です。夕方の比較的涼しい時分に、この蛙（かえる）の声を聞くと、なんだかとても心が落ち着くのです。

被害に遭われた地方の方々にはお見舞いの気持ちをお伝えしつつ、いい形で自然と一緒に暮らせたらと願います。とくに、これから人生を生きる子どもたちのためにも。

さてまずはじめに、子どもたちの人生に関わる大切な話・・・

けっして難しいとか、考えても無駄だと思わないでくださいね。
消費税の増税再延期の話です。

確かに増税は誰だってイヤです。ですが、安定した財源を確保し、今、子ども・子育てに国の予算を投じて問題の解決をしないと大変なことになります。少子化の進み方を、今、ゆるやかにしないと、年金の問題一つとっても解決が大変難しくなってしまいます。その時困るのは、今の子どもたちです。 続く↓

旧民主、自民、公明による3党合意を踏まえたもので、与野党を超えて、社会保障の重要性や問題点を共有したうえで、次世代に負担を先送りせず、安定的な財源を確保することも盛り込んだ。日本の政治が示した見識として、画期的だった。しかし、今は3党とも増税を先送りする方針だ。いずれも安定財源を明示しきれていないという点で同じだ。増税延期で国民は楽になつたように見えるが、そうではない。消費税は個人の財布という視点で見れば、

お金が出ていくだけのよう
に感じるが、実は、消費税で
社会保障のサービスを買っ
ているということだ。増税
と社会保障の持続性は、表
裏一体だ。消費税を通し
て社会保障を充実させる道
筋をつけることが、弱含み
で推移する個人消費を強く
するはずだ。3党合意の精
神は、堅持する必要がある。
安定財源を含め、どう社
会保険を充実させていくの
か。各党には社会保障の持
来像をはっきりと、分かり
やすく説明してほしい。
(4面に続く)



どういうことかという、子どもの数が減れば、次の世代で親となる数が減り・・・親の数が減ればその親たちが同じ数の子どもを産んでも、人口は減り、・・・その先には雪だるま式の人口減少が待っています。そうすると、年金・医療・介護など社会保障の仕組みの土台が壊れてしまい、これから大人になる子どもたちは、時代を支える中心的存在として、たいへん困った立場に立たされることになります。

人口減少がすべて悪いわけではなく、それに見合った社会の仕組みが作られれば、自然環境とも共生しやすいなどの良い点もあるでしょう。ですが、そのプロセスが急すぎると、とっても大変なことになると思うのです。繰り返しますが、私たちの課題は、少子化の進み方を、今、ゆるやかにすることだと考えます。そしてそのために、今、安定した財源が必要なのです。私がよく紹介する無藤隆先生は、もちろん予算の合理的な削減は必要かもしれないが、それだけではお金が足りない、と言っています。少子化の進み方をゆるやかにするためには、一桁足りない。安定した財源が、やはり必要。では、消費税の増税が先送りとなった今、その安定した財源をどこから持ってくるのか！？ 残念ながら、今度の参議院選挙で、このことを納得できる形で、はっきり言う政治家はいません。

自分たちさえよければいい、という風潮が広まっているようで・・・

アメリカの大統領選挙の予備選挙では共和党の“トランプ旋風”、そして先日はイギリスの“EU 離脱”・・・どちらも、自分たちさえよければいい、という主張が嫌な感じに聞こえるのですが、皆さんはどうお感じですか？

アメリカやイギリスのことなど関心がない、と言う方もいるかと思いますが、私は、この“自分たちさえよければいい”という風潮は、形は違いますが、日本国内にも広がっているように思うのです。

それは先日の某新聞に、東京の大きな幼稚園が、一度認定こども園になったけれどまた幼稚園に戻った、という記事が出ているのを見て、そう思いました。それはどういうことかと言うと、幼稚園に戻った理由・・・経営の収支の関係で大幅な減収になるからという理由ならば、背に腹は代えられないと、まだ理解できます。しかし認定こども園になって、市の利用調整で園の方針に必ずしも賛同していないご家庭のお子さんが入園してくるのが嫌だから、というのがその理由なのには、正直腹が立ちました。ある種の“分断”（例えば幼稚園 vs. 保育所）が問題の根源にある気がします。

国民の血税から予算を預かり保育・教育を行う施設なら、もっと公（おおやけ）の視点を持つべきではないでしょうか。利用調整で出会ったご家族とも入園前後で、園の考えを共有する努力ができるはず。はじめから「私たちの考えに賛同しない人は来ないでください」的な考えならば、公（おおやけ）のお金を一円ももらわずにやればいい（全額保護者負担）、と私は思います。・・・“分断”は、嫌ですが。

次の話題です・・・

これも、子どもたちにとって、そして保護者の皆さんにとっても大切な話。

親子関係をどう作っていくか・・・大昔からの難しい問題ですね。

人間関係がそもそも難しいのですが、相手が我が子だと、お互い甘えもあり、ややっこしいことになってしまいます。

右の新聞にあるようなことは、これも先輩パパママのアドバイスみたいな感じで、昔から言われていたことですね。

私が思うのは、多くの人間関係が、勝つー負ける という関係になっているから難しい、ということ。私が勉強してインストラクターになったPET（親業）では、次のようにアドバイスします。

①心に余裕があって我が子を助けられるときには、我が子の思いや願いを聴く。

②心に余裕がなく、とても我が子を助ける状態でない時は我慢せず、親である自分の気持ちを、我が子に伝わるように言う→ ポイントは、主語を「あなた（お前）」ではなく「わたし（お母さん）」で伝えること。ex.「お母さんは、〇〇が支度をしてくれないと、お買い物に出かけられなくなって、とっても困ってしまうんだ。」

・・・子どもが物を壊そうとしていたり、人を傷つけようとしているようなときは、やはりまず止めて、落ち着いてからですね。

子どもの叱り方

カッとしたりしたら時間置く

北海道の山中で、小学2年生の男児が森に置き去りにされ、その後保護された出来事で、しつけのあり方が改めて注目されている。子どものしつけについて悩む親は多い。叱り方や怒りの対処法などについて専門家に聞いた。

「子どもをどう叱ればいいのか、悩んでいる」と話すのは、3歳と5歳の子がいる横浜市の会社員の女性（30代）。外出先で頼んだり、あいさつができなかったりする時、「きつく怒ってしまうことがあ。注意を聞かないと怖い部



親子で楽しい思い出を作り、信頼関係を築くことも、しつけには大切な

20分と続いた。神奈川県茅ヶ崎市は30日9年か、子どもの叱り方や褒める方法を教える市民向け講座を開いている。講師を務める一人が同市子ども育成相談課の渡辺めぐみさんは、「影響力や愛が認められるならば、一見効果があるように見えても、何がけなかったか子どもはわからないままのことが多い。親の行動もエスカレートしやすい」と指摘する。

褒めることも忘れず

子どもの行動にカッとしたり、怒ったりするのは、親の育児を支援するNPO法人「ファミリーリンク・ジャパン」理事の神田明子さんは、気持ちを落ち着かせるために一時その場を離れたり、時間を置いたりすることを勧めらる。「子どもが小学生的な感情になった時は、一人で台所に入り、冷静になる時間を作った。一度、子どもが興奮した時、親の話を聞けそうにない時は、「話せる準備ができたからお母さんのところに来て」と言って落ち着かされたという。

しつけのポイント

- 感情的に怒らない。カッと怒った時は深呼吸する、一人になるなど、冷静になる時間を作る
- 脅す、殴るなどの暴力は、子どもとの間の愛情を壊すだけ
- 具体的な行動を叱る。「ダメな子だ」などと子どもの人格を否定しない
- 兄弟姉妹やよその子どもと比べて叱らない
- 叱るばかりでなく、褒めることも大切。楽しい時間を共有することで普段から信頼関係を築く
- 子どもによって成長や発達スピードはそれぞれ。大人の言うことを理解して行動できるようにするまで見守る余裕も大切
- 子育てやしつけについて、親も本を読んだり、保育のプロや地域の様々な年代の人たちと話し合ったりして、学ぶ

岩立さん、神田さん、渡辺さんの話から

海外でしつけの悩みも増えている。5月に行った調査では、ニューヨークの子育テ経験がある海外生協のメンバーの「福永佳子さんは、「危険を回避する能力がない子どもを、親の保護が足りない場所へ連れて行くのは、アメリカなどでは刑事事件になる場合もある」と指摘する。

子どもの権利感海外では

海外では「子どもの安全は親が守る」というのが常識という。アメリカに住んでいた日本人夫婦が、眠っている子どもを乗せた車をスーパーの駐車場で取り、短時間で買い物を終えて戻ってみると、警察官が車を止めて「子どもを助け出していたら、事件もあった」という。

日本では、街中で、子どもをたたいたり、罵つことを聞かない子を置いて歩いて行ったりする光景を見ることがある。「海外は、子どもの権利に敏感で、刑事事件となる可能性がある」と福永さん。子どもが他人にけがをさせるような危険なことをしている時、海外ではどのように注意すべきかと考えたうえで、「子どもの手を取ってやめさせ、その行為がなぜいけないかを目を凝らさず説明できるようにしては、海外も日本も大きな差はないようだ。」

最後に・・・もし可能なら、のお願い・・・

保護者の皆さんがご自身の、ご意見、お気持ち、ご提案などを伝える手段として、電話やメール、会って話す、「園長ホットライン」などがあります。そこで、「名前を名乗らなくてはならないのなら、伝えられない」、という方がいらっしゃっても、まず私は、「たしかに、それも分かる」と受け止めたいと思います。



私は園長として、『子どもの成長を共に喜び合う関係』(*1)を前提に、ご意見、お気持ち、ご提案などをもとに、皆さんとお話をしてきました。もちろん結果として、

- ①すぐに解決できたこと
- ②解決にちょっと時間がかかったこと
- ③時間をかけても解決が難しかったこと

が、ありました。しかし、話し合いというプロセスが、やはり大事だったと思うのです。

(*1) 保護者・親の立場と 園・保育者は対場が違うので、物事の見え方や捉え方にギャップがあって当然です。ですが、お互いの間にいる子どもたちの成長や幸せを望まない人は、一人もいないはずです。
子どもたちを中心に話し合えば、必ず、保護者・親も 園・保育者も納得する解決ができると信じています。実際今まで、そのような話し合いをしてきました。

それは、0・1・2歳の育ちを土台に、3歳（自我の発見）、4歳（自己肯定感）、5歳（合意の形成）(*2)というように、その時その時の育ちを積み重ねていくのが、本園の保育・教育だからです。そして私は子どもたちに、大人同士が話し合っ『合意の形成』をはかろうとしているプロセスを見せたいと願うのです。

ですので可能であるならば、名前を名乗って、意見や提案をいただきたいな、と思うのです。そうでないと話し合いができないからです。でもやっぱり無理、というのであれば、もちろん匿名でも話を聴きます。というか、それでも話を聴かせてください。けっしてキレイごとを言う気はありませんが、子どもたちのために！です。

(*2) どちらか弱い方が強い方の言うなりになる、みたいな勝ち負けではなく、お互いの考えや思っていることを出し合っ、お互いに大切にすることのために、お互い歩み寄れる接点（合意）を探し出す・・・お互いが納得できる問題解決、自分も相手も大切にすること問題解決・・・これが、『合意の形成』です。難しいことですが、私たちは卒園する子どもたちに、この『合意の形成』を求めます。

なかなかのんびり子育てする余裕がない時代ですが、であればあるほど、本園が安心して子育てを楽しめる場であってほしいと思います。皆さんと同じ思いで、少しでも理想の場にしていけたらと願っているのです、これからもどうぞ、よろしくお願いします。